

大阪府立芥川高等学校 令和5年度第3回学校運営協議会 議事録

|     |          |
|-----|----------|
| 校名  | 府立芥川高等学校 |
| 校長名 | 富山 一紀    |

|         |  |
|---------|--|
| 開催日時    | 令和6年2月21日(水)   |
| 開催場所    | 府立芥川高等学校 校長室   |
| 出席者(委員) | 清水会長、吉田委員、芝野委員、西田委員  |
| 出席者(学校) | 校長 富山、教頭 吉岡、事務長 川谷、首席 藤原、首席 渡邊、進路指導主事 片山、書記 西村、相田                  |
| 協議資料    | 令和5年度学校経営計画及び学校評価、42期生入試結果、授業アンケート集計結果等、学校教育自己診断・集計報告等、令和6年度学校経営計画 |
| 備考      |  |

議題等(次第順)

- ・11月～2月の学校の動きについて(報告)
- ・令和5年度学校経営計画及び学校評価について(協議)
- ・本校生の進路状況等について(報告)
- ・授業アンケート結果等、学校教育自己診断結果等について(報告)
- ・令和6年度学校経営計画について(協議)

協議内容・承認事項等(意見の概要)

○前回協議会(11月)以降の学校の様子として、①コロナ・インフルエンザの感染状況、②洋式トイレへの取替・電子黒板機能付きプロジェクタの設置、進路自習室等の施設充実、③アサーショントレーニングに関する教員研修と生徒HRの実施等の報告があった。

○「令和5年度学校経営計画及び学校評価」に関して、以下報告があった。

- ・「1.主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成」では、授業アンケートにおける授業満足度は80%以上(85.7%)を維持。進路情報提供については、生徒の満足度は89.4%でありほぼ目標を達成した。
- ・「2.グローバルな視点で考える力を持った生徒の育成」において、グローバル専門コースでは大学出前特別講義、留学生との交流、海外校とのオンライン交流を実施、また学校全体ではミラニ高校への語学研修、修学旅行での異文化理解をテーマとした事前事後学習、JICA海外青年協力隊員の講演等、多様なプログラムを実施できた。
- ・「3.豊かな人間力を持った生徒の育成」においては、浦堂認定こども園での保育実習、外部機関と連携した福祉出前講座、部活動の地域行事への参加、生徒が自主的に運営する学校行事等に取組めた。一方、部活動の定着率がやや低下気味なのが課題である。
- ・「4.信頼される学校づくり」においては、教職員向け学校教育自己診断で相談しあえる人間関係に関する肯定率は2年続けて5ポイント以上上昇(88.5%)。同僚性の高さを活かし業務の円滑化が進められている。保護者への配付文書、さらにその他の学校情報を保護者向けメールマガジンで配信できた。

○本校生の進路状況について以下報告があった。全体的に関西の有名私学への合格が増加した。指定校推薦、総合型入試、公募制推薦で進学する生徒が多い中一般入試まで頑張る生徒もいて、関大・甲龍産近の合格者も出ている。専門学校・就職についても、例年通りの進路決定者を見ている。

○授業アンケート、学校教育自己診断の結果について報告があった。

○学校運営協議会委員より、以下のご質問・ご助言があった。

- ・修学旅行を『異文化理解』のテーマでおこない、事前事後学習にもしっかりと取り組んで良いことであると思う。
- ・ICT活用について、中学校では生活指導上の心配を持つ先生方も多く、生徒が期待するほど十分に使えていない現状があるかもしれない。
- ・高槻市の小学校はICTを高いレベルで活用しており、数年後には使い慣れている子どもたちが高校に入学してくる。一方、ICT機器を導入したからといって直ちに学習時間が伸びるということはない。大阪の高校生は学習時間が短く(ICT活用とは別に)学習へ向かう根本的な取組みを考える必要がある。
- ・ICT活用について生徒・保護者の肯定率が高まり逆に教職員の肯定率は減少すると、異なる傾向を示した理由をどのように考えるか？
- ・学校行事で生徒はどんな力をつけて、学校生活でどのような成長が見られたか？
- ・進路情報の提供で、生徒は肯定率がほぼ90%であるが保護者は78%にとどまる。要因は何か？
- ・(学校の報告を聞くと)「1.主体的に進路を切り拓く力を持った生徒の育成」の各項目で、数値目標の達成が△となる項目もあるが高い目標設定をおこなっているのも、やむを得ないところがある。
- ・ICT校内研修や人権研修などの取組みや努力が、学校への信頼、学校行事の満足度、国際理解・福祉ボランティアに関する体験的学習への評価などが、成果として現れている。
- ・上記のような意見をもとに、令和5年度学校経営計画及び学校評価が承認された。

○質問の回答

- ・教員のICT活用については活用が進んでいるが、教職員向け学校教育自己診断では肯定率が10ポイント以上ダウンしている。教員の活用は進んでいるものの、まだまださらに活用すべきだと考えていることがうかがえる。
- ・体育祭で3年生に1,2年生をまとめる役目を与えて実施し、リーダーが自主的に球技大会を企画するなど大きな成長が見られた。
- ・保護者への進路情報の提供については、コロナ感染防止のための制限の影響が残っている。本年度より機会をとらえた保護者向け進路説明会等を開催しており、今後も説明の機会を増やしていく予定である。

○令和6年度学校経営計画については「めざす学校像」はスクールミッションを反映。「中期的目標」についてはほぼ令和5年度と同じであるが、数値目標を若干修正。おおむね了承された。